

中空知地域公共交通活性化協議会(滝川市)における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

滝川市は、北海道中空知地域の中心都市として、さらには周辺市町を含む交通の拠点として機能しており、特に路線バスは滝川市内、周辺市町住民の通勤・通学・通院・買い物等の足として重要な役割を果たしてきた。

しかし、路線バスの利用者数は、人口減少、自家用車の利用により年々減少し、効率的な運行が難しい状況にあるなど、今後路線バスの維持が困難となることが予想される。

こうした状況下において、特に滝川市内線は、市内移動の基幹的な役割を果たすとともに周辺市町と滝川市を結ぶ広域路線に接続する重要な位置づけにある。今後さらに高齢化が進む中で、高齢者など交通弱者にとっての生活利便性を向上させ、広域的な交通接続による地域の活性化の実現、さらには、コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造の推進を図るため、滝川市内線の確保・維持が必要である。

地域公共交通の現況

- JR函館本線・根室本線
(滝川駅、江部乙駅)
- 北海道中央バス(株)、空知中央バス(株)
(都市間バス2路線、近郊路線6路線)
- タクシー事業者3社
(三和ハイヤー(株)、ふじ観光(株)、北星三星交通(株))
- スクールバス(6路線)

生活交通確保維持改善計画の目標

年間の利用者数154,000人以上とする。
平均収支率57.0%以上とする
公的資金投入額30,718千円/年度以下とする。

協議会開催状況

- 令和7年6月10日 (令和7年度第1回)
【主な協議事項】
令和8年度地域公共交通確保維持事業について
- 令和8年1月9日 (令和7年度第2回)
【主な協議事項】令和7年度事業評価について

令和7年度事業概要

滝川市内線(東町先廻)
起点:滝川駅前
終点:滝川駅前
運行日数:364日
運行回数:4,957.0回
【車両減価償却費等国庫補助】

令和7年度事業の実施状況

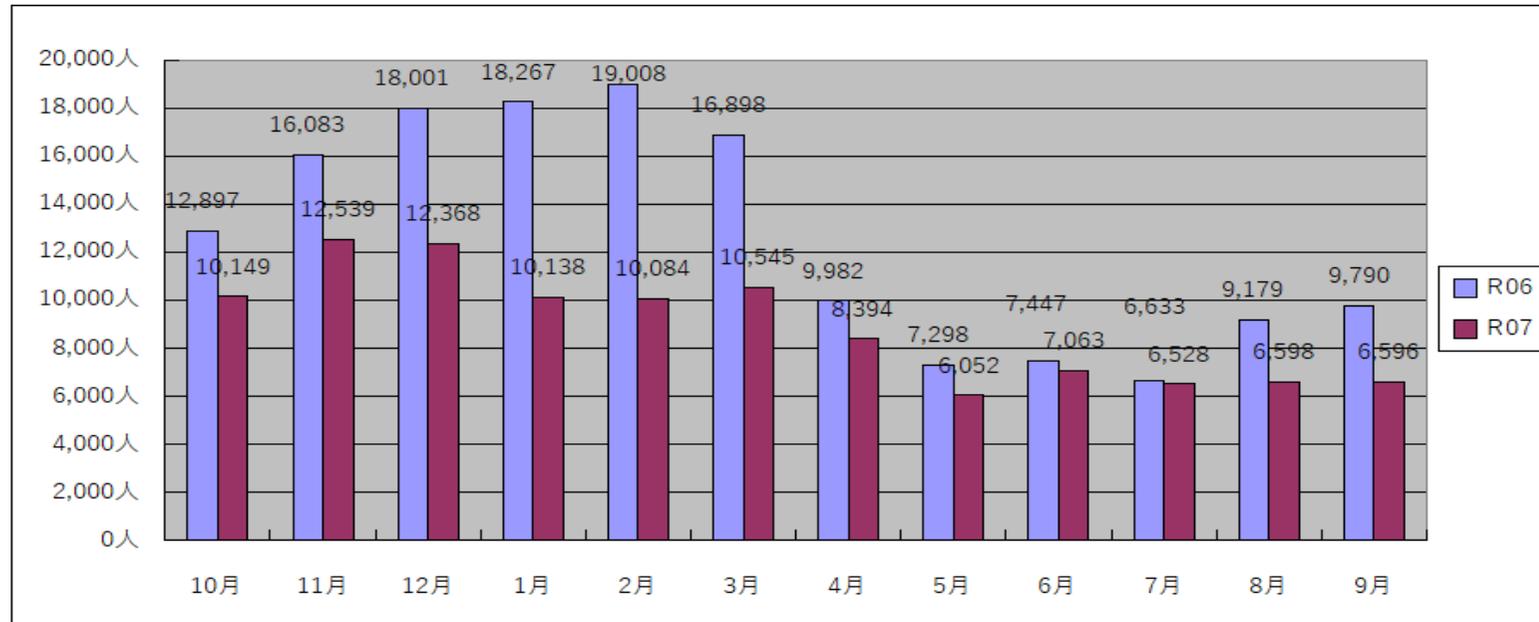
1) プロセス、創意工夫

- ・バスの利用促進を図るオリジナルキャラクターを制作し、各種取組みに活用した。
- ・中心商店街等の取扱店で特典やサービスが受けられる「バス乗車トクトクサービスカード」をバス利用者に配布し、利用促進を図った。
- ・市内小学校の児童にバスを身近に感じ、バスへの興味やバスの乗り方を知ってもらうため、路線バス乗車体験など市内バスに関する授業を実施した。
- ・市内バス路線や乗り方を知ってもらうための「滝川市バスマップ」を配布した。
- ・コロナ禍における利用実態に対応した運行便数とするため、R3年12月から減便による効率化を図った。
- ・滝川駅前広場の整備に伴い、H30年4月から滝川駅前への乗り入れを開始した。
- ・運行の効率化を図るため、R6年3月末で西町先廻を廃止した。
- ・令和7年4月より自家用有償旅客運送を開始した。

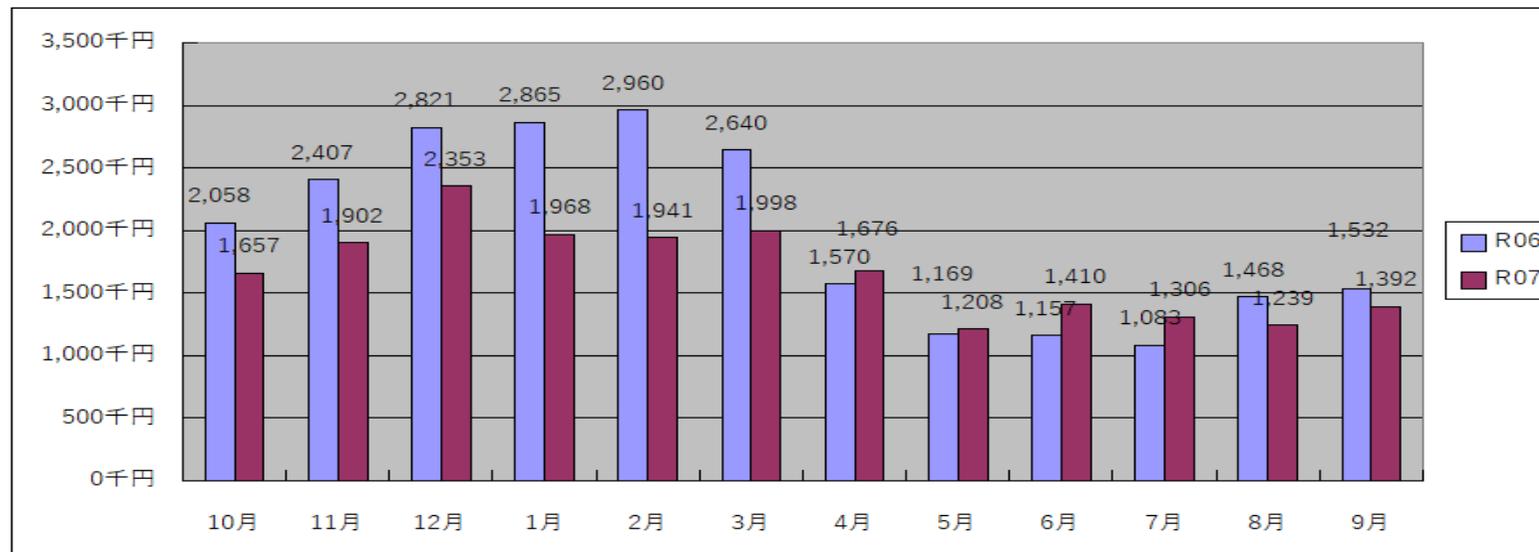
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



※令和7年4月より自家用有償旅客運送

5) 事業実施の適切性

計画通り事業は実施された。

7) 事業の今後の改善点

事業者協力型の自家用有償旅客運送となったため、各種利用促進施策に取組み、持続可能な公共交通の確立を目指す。

6) 目標・効果達成状況

【目標】

年間の利用者数154,000人以上とする。

平均収支率57.0%以上とする。

公的資金投入額30,718千円/年度以下とする。

【実績】

年間の利用者数107,054人

平均収支率72.6%

公的資金投入額12,288千円

【達成状況】

利用者数については、目標154,000人に対して、実績107,054人であった。平均収支率については、目標57.0%以上に対して実績72.6%であった。公的資金投入額については、目標30,718千円/年度以下に対して、実績12,288千円/年度であった。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・収支率及び公的資金投入額の目標は達成されたが、利用者数の目標を達成することができなかったことから、今後も地域公共交通計画に基づき、更なる利用促進の取組を期待する。